

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 東京大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

公共政策・国際関係分野におけるBESETOダブル・ディグリー・マスタープログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

東アジアの公共政策・国際関係分野における最高水準の英語による学位プログラムを創成することにより大学の世界競争力を強化し、多文化的な視点を持つ次世代のアジアのリーダーなどの優秀なグローバル人材を育成する。

【構想の概要】

北京大学、ソウル大学校、東京大学三大学(BESETO)の間でコンソーシアムを形成し、公共政策・国際関係分野における大学院レベルでの日中韓交流で英語での教育による交換留学または及びダブル・ディグリー(DD)を導入する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

単位の相互認定、成績管理、学位授与に至るプロセス

①相互で単位あたりの授業時間をもとに換算方法をルール化、②各大学の修了要件を比較、③コアコースの部分については、単位の読み替え先として対応する科目を事前に協議の上一覧にまとめる、④学生の一般的な履修モデルを提示する。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

アカデミックカレンダーの違いを利用した集中講義、言語教育とインターンシップ

集中講義形式のサマースクールやそれぞれの言語を学習する機会の提供、インターンシップ先の紹介などを行う。

〈北京大学でのサマースクール2014〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈ソウル大学校でのサマースクール2014〉

○ キャンパスアジアコース2期生の入学とダブル・ディグリー派遣・受入開始

東京、ソウル、北京の3大学での単位を必須とする「キャンパスアジアコース」の2期生が入学した。ソウル大学校より5名、北京大学より4名のダブル・ディグリー生を受け入れた。

○ ソウル大学校・北京大学でサマープログラムを実施

2014年8月、ソウル大学校および北京大学に東京大学在籍中の学生を派遣し、サマープログラムを実施した。



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

キャンパスアジアコースに在籍する学生を中心に派遣する。①交換留学(留学期間2校で1年)またはDD(留学期間2校で1年半)、②DDでは北京大とソウル大のどちらかを選択した上で人数調整を行いながら派遣時期を決定する。毎年各校に5名ずつ派遣予定。数字は実人数(サマースクール含む)

○ 外国人留学生の受入れ

BESETOで連携しながら受入学生の選考を行う。DDでは1年間、交換留学では1学期間の受入を行うため、東大にDDを希望する学生が増えると受け入れ人数も増える。数字は実人数(交換留学、DD、サマースクール含む)

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入	C0 K0	C5 K3	C19 K15	C10 K5	C12 K12
中国(C)での受入	J12 K0	J3 K5	J5 K6	J25 K6	J14 K5
韓国(K)での受入	C0 J13	C10 J19	C10 J8	C5 J26	C5 J15

注)H23~H26は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

○ 時間割に合わせた日本語コースの提供、インターンシップの機会の提供

通常授業の時間割と重ならないように独自の日本語授業を提供する。またインターンシップの機会を多く斡旋するため受入企業・機関の開拓を行う。

○ 受入学生への奨学金、派遣学生への渡航費を補助。Webによる情報発信。

受入学生には月額8万円の奨学金と宿舍の無償提供を行う。サマースクールをふくめ、海外派遣する学生の航空運賃を学生支援経費から補助する。また、キャンパスアジアのウェブサイト構築し、情報発信を行う。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/campusasia/index.html>

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

留学生比率、英語による授業数の増加、シラバスの公開

構想開始前と比較して、留学生の対日本人比率は3倍以上、英語による授業数は20科目以上増加。学生の履修方法などについては、説明会を実施し教職員に相談できるサポート体制を整備。修了要件やシラバスは、印刷物またはホームページなどで公開され、透明性、客観性を維持する。